



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課  
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359  
TEL 0993-22-6422

## 南九州市「知覧茶」が全国茶品評会で日本一

### 1 全国茶品評会へ出品

「全国お茶まつり鹿児島大会in南九州市」の令和2年開催に際し、南九州市47名、枕崎市6名、南さつま市1名の茶生産者が全国茶品評会への出品に取り組みました。

大会を盛り上げるため、普通煎茶10kgの部を中心に普通煎茶4kg・玉露・かぶせ茶・碾茶と、5部門への出品に向け、数年の準備期間を経て、いよいよ開催当年を迎えました。

ところが、新型コロナの感染拡大を受けて大会の開催が不透明のまま、出品茶の摘採時期を迎えることとなりました。「最善を尽くそう!」と、関係者一同で感染対策を万全に講じながら出品に臨みました。

普通煎茶4kgの部では、18年ぶりの手摘みにおよそ100名が参集されました。また、経験の浅い玉露・かぶせ茶・碾茶では、知識を結集して被覆や製造技術を工夫しました。



写真1 新型コロナ対策を講じた手摘み作業

### 2 日本一獲得、多数入賞

品評会審査会は、万全の感染対策が講じられた上で8月下旬に実施されました。摘採時期直前の低温や強風に対応した生産で、他地域に勝る高品質を確保できたか心配でしたが、多数の入賞を果たすことができました。特に、南九州市は普通煎茶10kgの部で、農林水産大臣賞ほか特別賞3点および「知覧茶」統一後に初の産地賞を受賞し、日本一の栄誉に輝きました。

#### 【入賞実績】

点数：南九州市29点 枕崎市1点

部門：普通煎茶10kg, 同4kg, かぶせ茶



写真2 南九州市が塩田知事(左)より表彰

### 3 さいごに

知覧茶のPRや交流の機会が期待された全国お茶まつりは、コロナ禍のもと残念ながら開催中止となりましたが、国内最大の茶産地として結果が求められた中で、生産者と関係機関の努力により達成された「日本一」の称号が、さらなるブランド価値向上につながることを期待します。

# サツマイモ基腐病 被害状況に応じた対策で収量確保

## 1 サツマイモ基腐病とは？

平成30年度から南薩地域で確認され、立枯・腐敗症状の被害が発生し、年々被害面積が拡大しています。

症状は茎葉が黄色や紫色に変色してしおれ、地際の茎が黒変し、次第に地上部が枯死します。

地上部が枯死した株は、主にさつまいものなり首から腐敗していきます。



写真1 基腐病発生ほ場と感染したさつまいも

## 2 病害対策について

基腐病が発生した場合、次年度も発病する可能性は高いことから、被害状況に応じた病害対策が重要です。

### (1) 未発生の場合

総合的な対策をとらなければ病害発生が懸念されるため、すべての作業工程で手を抜かず、苗消毒や排水対策など基本技術の徹底が重要です。

表1 基本技術の徹底のポイント

行程	実践ポイント
育苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種いもの選別</li> <li>・ウイルスフリー苗の導入(種いも更新)</li> <li>・5cm以上の高い位置で採苗</li> <li>・苗消毒</li> <li>・ハサミの消毒</li> <li>・怪しい株は株ごと除去</li> </ul>
本ほ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水対策の実施(サブソイラ等の地下への排水促進排水口の複数設置など表面排水促進)</li> <li>・初期発生株の抜きとり(畝間を覆うまで)</li> <li>・予防剤の計画的な散布(発病前から実施)</li> <li>・早掘り</li> <li>・収穫後、できる限り残さの回収</li> <li>・残さの分解促進(月1~2回耕うん)</li> </ul>



写真2 表面排水対策

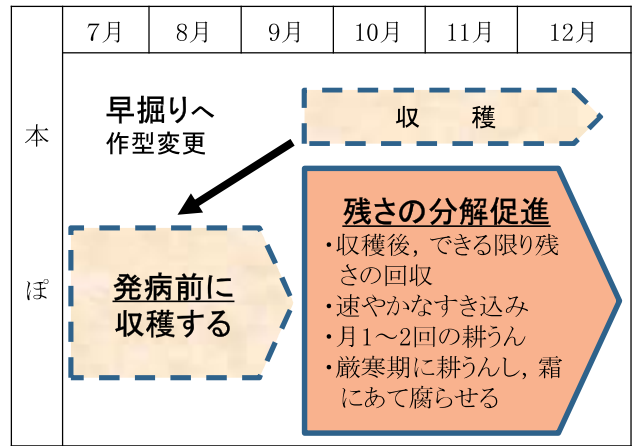


写真3 予防剤の散布

### (2) 少発生の場合

発生が少ない場合、次年度は早掘りを行い、発病前に収穫することで、収量を確保します。併せて、収穫後の残さ回収の徹底と、耕うんを繰り返し行い(地温の高い時期ほど有効)、残さの分解を促進することで翌年の被害軽減が期待できます。当年度の病勢進展前の早掘りも効果が期待できます。

表2 早掘りによる被害軽減対策イメージ



### (3) 多発生の場合

基腐病菌は、残さをすみかにしているため、罹病残さがあると、次作も発病し、甚大な被害となる可能性が高いです。

そのため、多発ほ場は、他品目を栽培するか、休耕し、厳寒期および夏場の耕うん、萌芽した株の抜きとり等、残さをなくす工夫をしましょう。



写真4 残さが残っていたほ場(左) 罹病いもから再発病した様子(右)

より詳細なサツマイモ基腐病対策はこちらを読んでください⇒



# キャベツ栽培でスマート農業実証 (株)指宿やさいの王国

## 1 指宿市のキャベツ栽培

指宿市は農業法人を中心にキャベツの栽培が増加しており、現在の生産面積は644ha(令和元年)となっています。今後さらに生産面は拡大すると考えられますが、労働力の確保が難しいことが予想され、省力化は欠かせません。

## 2 実証内容の概要

指宿市の株式会社やさいの王国では、リタイヤした農業者の農地を集積し、生産面積を年々拡大しています。面積を拡大していく中で、労力確保が大きな課題となっており、これまでは農地の拡大や外国人技能実習制度を活用し、施肥作畝から収穫作業までの一連の作業を行ってきました。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外国人技能実習生の受け入れが難しくなり労働力が不足している状況です。そこで、国の「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」に応募・採択され、GPS車速連動型肥料散布機及びGPSロガー搭載キャベツ収穫機の導入・実証を行い、労働力不足の解消に取り組んでいます。

また、指宿市ではGPS車速連動型肥料散布機及びキャベツ収穫機の普及が進んでいないため、農業者や関係機関の指導員を対象に研修会、農業高校生に対して実証を行うことでスマート農業を広く理解できる人材育成に取り組んでいます。



写真1 実証ほの状況

## 3 実証する技術体系と目標

### (1) 施肥・耕耘作業の省力化

GPS車速連動型肥料散布機により、施肥作業及び耕耘作業時間の47%削減を図ります。また、作業者の技術習熟度に関わらず、均一散布による生育ムラの解消を図ります。



写真2 GPS車速連動型肥料散布機

### (2) 収穫作業の省力化

GPSロガー搭載キャベツ収穫機導入により、収穫作業時間26%の削減を図ります。また、硬いキャベツを切って収穫するという重労働を減らし、軽労化を図ります。



写真3 GPSロガー搭載キャベツ収穫機

# ハウスきんかんの大玉果生産と販路拡大への取組

## 令和2年産きんかん栽培の状況

南薩地域のきんかん(ハウス・露地)の出荷は、11月27日から始まり、年明けから完熟の「きんかん春姫®(はるひめ)」の集荷・販売も始まりました。



写真 完熟したハウスきんかん(左)、選果作業(右)

きんかんはハウスで6月、露地で7月から開花を繰り返す四季咲き性の特徴があります。特にハウス栽培においては、一番花(6月)を着果させて大玉果を生産することが課題となっています。

そこで、着花する枝を充実させ、開花を安定させることを目的として、天井ビニル被覆を推進したところ、受粉促進とハウス内の保温を図ることができました。その結果、本年度から天井ビニル被覆に取り組んだ栽培園地が増え、着果安定と大玉果生産につながっています。

## 輸出を見据えた新たな取組

台湾や香港の春節行事(2月下旬)への需要を狙い、本年度から輸出への対応を開始しました。国内だけでなく海外に向けても有利な販売を展開・拡大していけるよう、輸出に対応した防除暦を検討して取り組んでいます。

これからも安心・安全で美味しい完熟きんかんを提供できるよう、地域一体となって取り組みたいと考えています。

# クラウドファンディングを活用した新商品開発支援

指宿地域で生産される胡蝶蘭は一般的に高級なイメージがあり、普段の生活に溶け込んでいるとは言いがたい品目です。

そのような胡蝶蘭のイメージを覆したいと今年度、1人の生産者が誰でも簡単に開花させられる商品を開発し、PRを兼ねたクラウドファンディングに取り組みましたので、ご紹介します。

誰でも手軽に栽培できる胡蝶蘭「ファレノブランコ」の特徴

- ・水栽培出来るよう根を特殊洗浄した商品です。
- ・水栽培なので、管理が簡単です。
- ・用土がないため、食卓に飾ることが出来ます。
- ・葉や花芽だけでなく、根の生長も観察出来ます。



## クラウドファンディングに取り組んだきっかけ

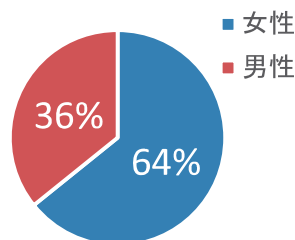
商品開発までは出来たものの、世の中に広める方法について苦慮していたところ、「よろず支援拠点」よりクラウドファンディングによる商品PRを提案され、6月～8月の2ヶ月間取り組みました。

## 取り組んだ結果

2ヶ月間の取り組みで延べ162名の方に応援いただきました。

男女別では約6割が女性、4割が男性(データ略)で、年齢別では40～50代が7割超を占めました。

今回得られたデータやノウハウを元に今後も新商品開発支援に取り組んでいきたいと考えています。



購入者の男女比率